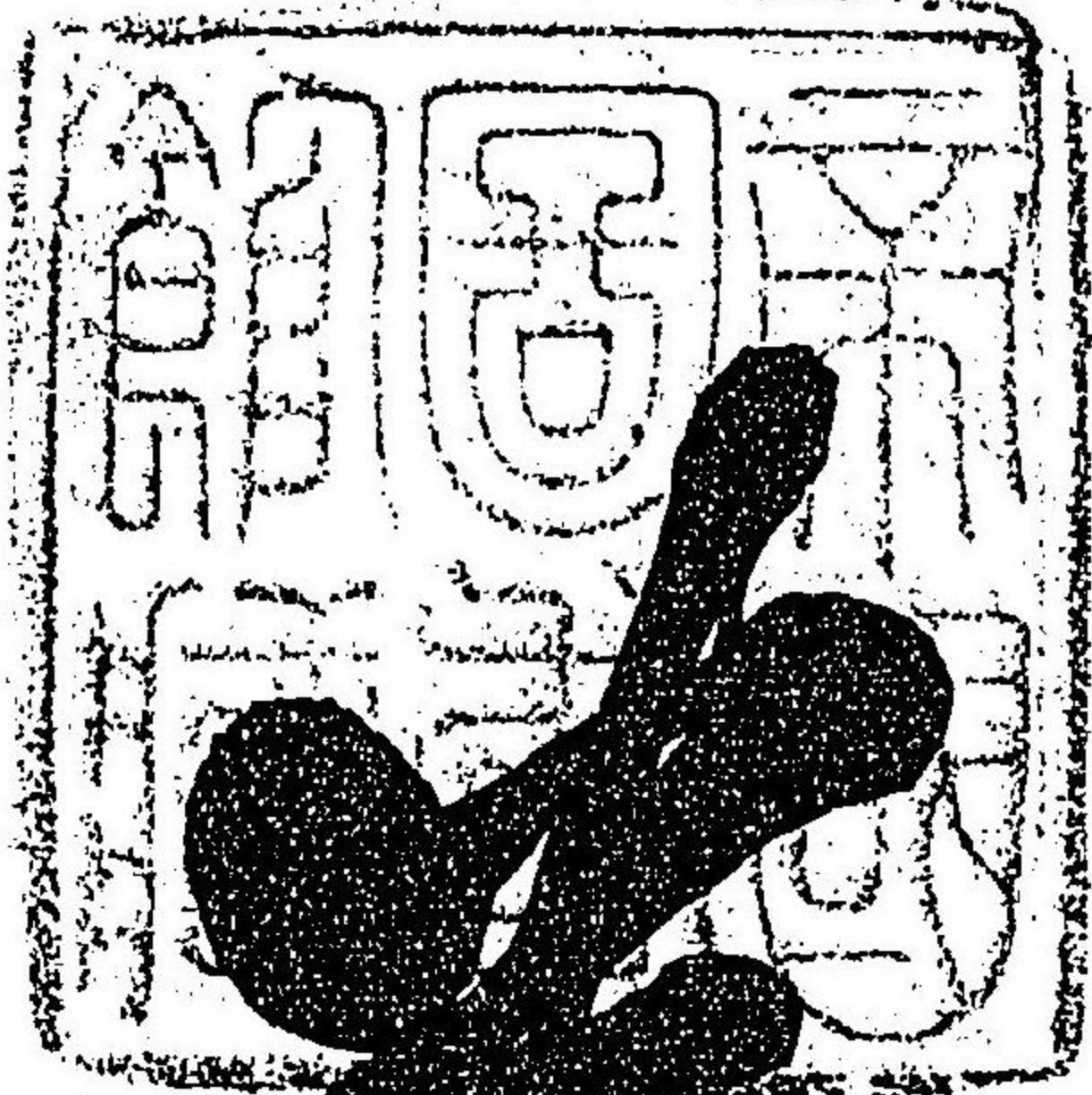


2-271

97-15



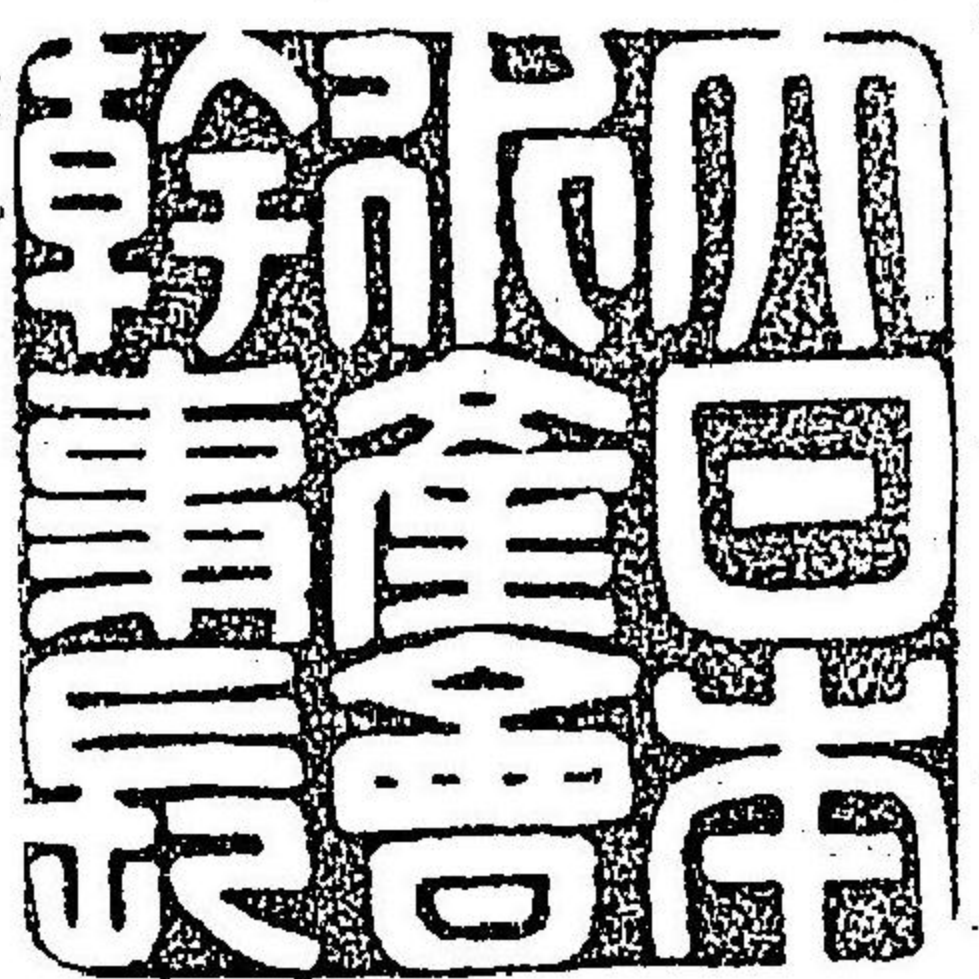
張



有

真

後印
有產之利



敘



我濃之海鮮自古以鯉魚充食饌近歲其用
頗廣於是乎養之鬻之者日多而所得之利
或不若昔時蓋由昔不得其法而今家可見
郡仰高町伊崎吟二郎氏夙業養鯉實驗
有年心解予得所施合法是以其利率倍
兩伊崎養魚場之名益顯焉今茲癸卯開

博覽會於大阪氏出所著鯉魚及鯉醬物副
以可著養鯉法一編嗚呼世人幸私利整
斷矧予所自得多秘而不傳如氏可謂能與
人共利者也來清一言乃書編首如此

明治三十八年二月於御嵩舊店

與額敬夫水谷芳夫識



序文

學說ニ偏倚スルモノハ未ダ實行セズシテ理論上不可
能ノ事トシ自棄スルノ過アリ實驗ヲ主張スルモノハ
條緒ヲ尋チズ漫然可能ノ事トシテ暴進スルノ失アリ
俱ニ産業振興ノ途ニアラズ蓋シ學說ハ實驗ニ依ラザ
レバ經濟ノ道理ニ協フヲ得ルニ至ラズ實驗又學說ニ
依ラザレバ得失ノ存スル所ヲ明ニスルヲ得ズ二者相
倚リ相扶ケテ初メテ産業振興ノ實効ヲ收ムルヲ得ベ
シ然ルニ近來専門ノ學者ハ實驗家ヲ迂魯事ニ効ナシ
トシテ疎斥シ實驗家ハ之ニ反シテ専門ノ學者ハ筆舌

ニ巧ミナレドモ實用ヲ爲サズトシテ之ヲ敬遠シ互ニ乖離スルノ傾キアリ俱ニ狷介ニシテ世用ニ堪ヘザルモノナリ友人伊崎吟二郎君養鯉法ヲ著ハス披テ之ヲ見ルニ産卵孵化養成ノ方法餌料投與ノ得失ヨリ親魚ノ鑑別ニ至ル迄實地ノ經驗ニ基キ歐米日新ノ學說ヲ加味シ化工之妙ヲ奪ヒ神秘ノ奧ヲ發カザルハ無シ寔ニ良著ト云フベシ世ノ養鯉ノ業ヲ起スモノ深ク此書ヲ熟讀玩味シテ事ニ從ハゞ庶幾クハ過ルコト無キコトヲ得ン乎

明治三十六年五月

加藤正誼

緒言

著者ガ養鯉ノ業ヲ營ムコト二十餘年得ル所少カラズ往年其大要ヲ編述シテ第二回水産博覽會ニ出品シ褒賞ノ榮ヲ辱クシ爾後内外學士ノ說ヲ參酌シテ之ヲ實地ニ應用シ益收利ヲ增加スルニ至レリ一日友人來テ之ヲ世ニ公ニセンコトヲ勸ム著者以爲ク近時良著書頗ル多シ此編ノ如キハ固ヨリ世ヲ益スルニ足ラサルナリ然レトモ又經濟的養鯉法トシテ養鯉家諸君ノ一顧ノ値ナシトセズ依テ往年第二回水産博覽會ニ出品シタルモノニ基キ更ニ爾後ノ經驗發明ヲ補足シ友人ノ言ニ從ヒ出版スルコト。セリ

明治三十六年五月

編者識

養 鯉 法 目 次

| 一 法 鯉 養 | |
|-------------|-----|
| 親魚養成..... | 一頁 |
| 親魚選擇..... | 二頁 |
| 產卵池..... | 五頁 |
| 孵化池..... | 六頁 |
| 稚魚放養池..... | 六頁 |
| 當歲魚飼養池..... | 八頁 |
| 二歲魚飼養池..... | 十頁 |
| 三歲魚飼養池..... | 十頁 |
| 親魚飼養池..... | 十一頁 |
| 冬季貯藏池..... | 十二頁 |

産卵……………十三頁
 孵化……………十六頁
 餌料……………二十頁
 飼養尾數及成長ノ度……………二十三頁
 害敵……………二十七頁
 魚病……………二十八頁
 雜錄……………三十三頁
 養魚場計算……………四十四頁



法

伊崎吟二郎著

鯉ニ各種アレトモ就中需用ノ最モ多キモノヲ眞鯉トス而
 シテ之ヲ飼育セントセバ先ヅ其親魚トナスベキモノヲ養
 成セサル可カラズ之レヲ養成スルニハ最初當歲魚ヲ飼ヒ
 タルトキ其中非常ニ他ニ秀デ、成長シタルモノヲ撰ビ別
 ニ飼養シ以テ年ヲ經テ之レヲ親魚ト爲スニ在リ
 當歲魚ノ成長ハ平均三十五匁位ヲ通常トスレドモ中ニハ

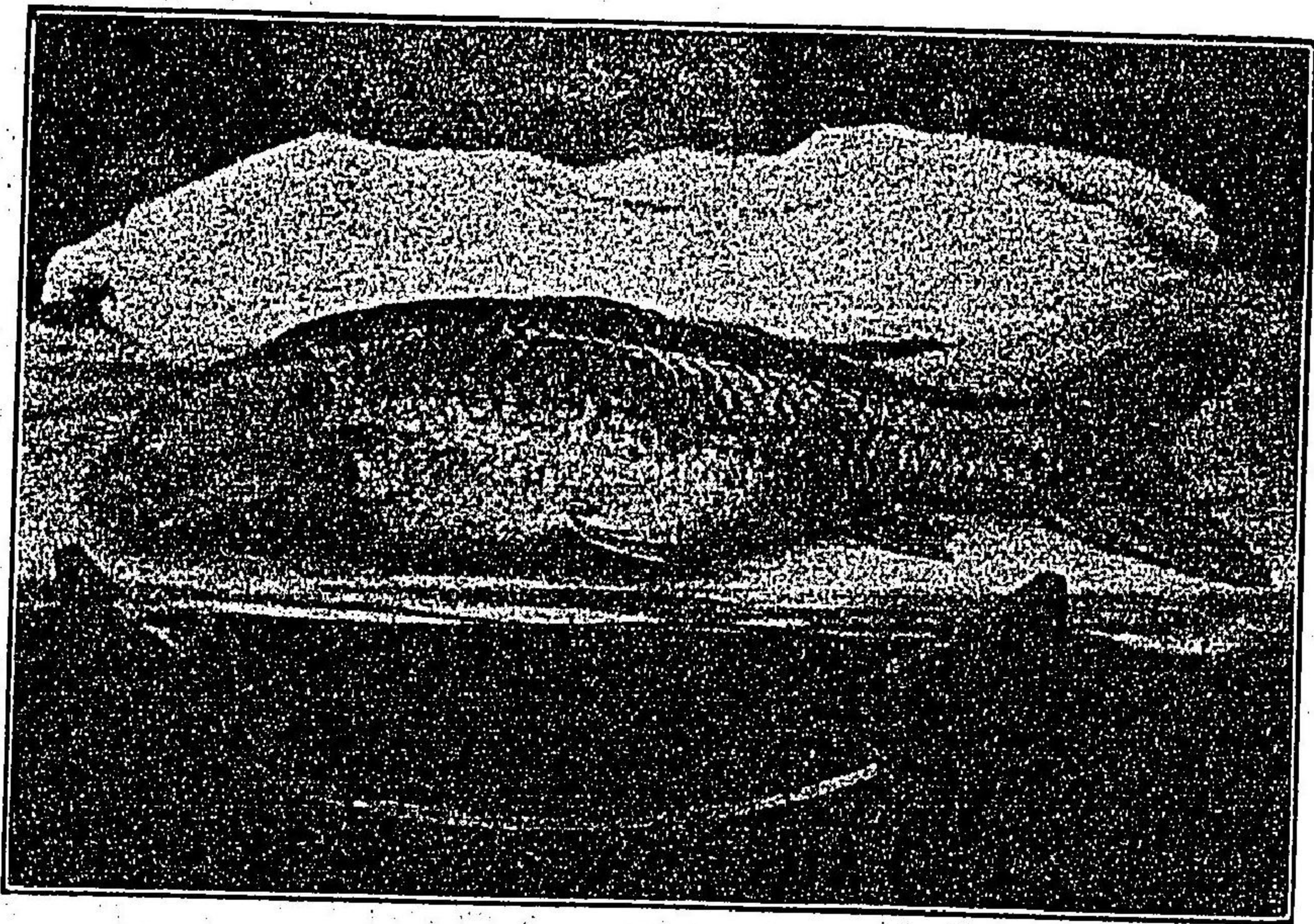
百五拾々位迄生長スルモノ千尾ニシテ五六尾ハ必ズ之アリ又此秀デタルモノ十中ノ八九ハ皆雌魚ナリト知ルベシ種屬ノ正シカラサルモノヲ親魚ト爲ストキハ往々緋鯉斑鯉等ノ變種ヲ生ズルユトアリ是等ノ種類ハ全ク親魚ト爲スベキ價値ヲ有セザルモノナリ但シ此種類ト雖モ眞鯉ヨリ眞鯉ヲ取り三代ノ後ニ及ビテ親魚トスレバ初メテ眞正ノ眞鯉トナリ決シテ變種ヲ産出スルユト無シ然レドモ常ニ其變種ト一處ニ混淆シテ飼養スルトキハ亦自然ニ變化スルノ恐レアルモノナリ

親魚撰擇

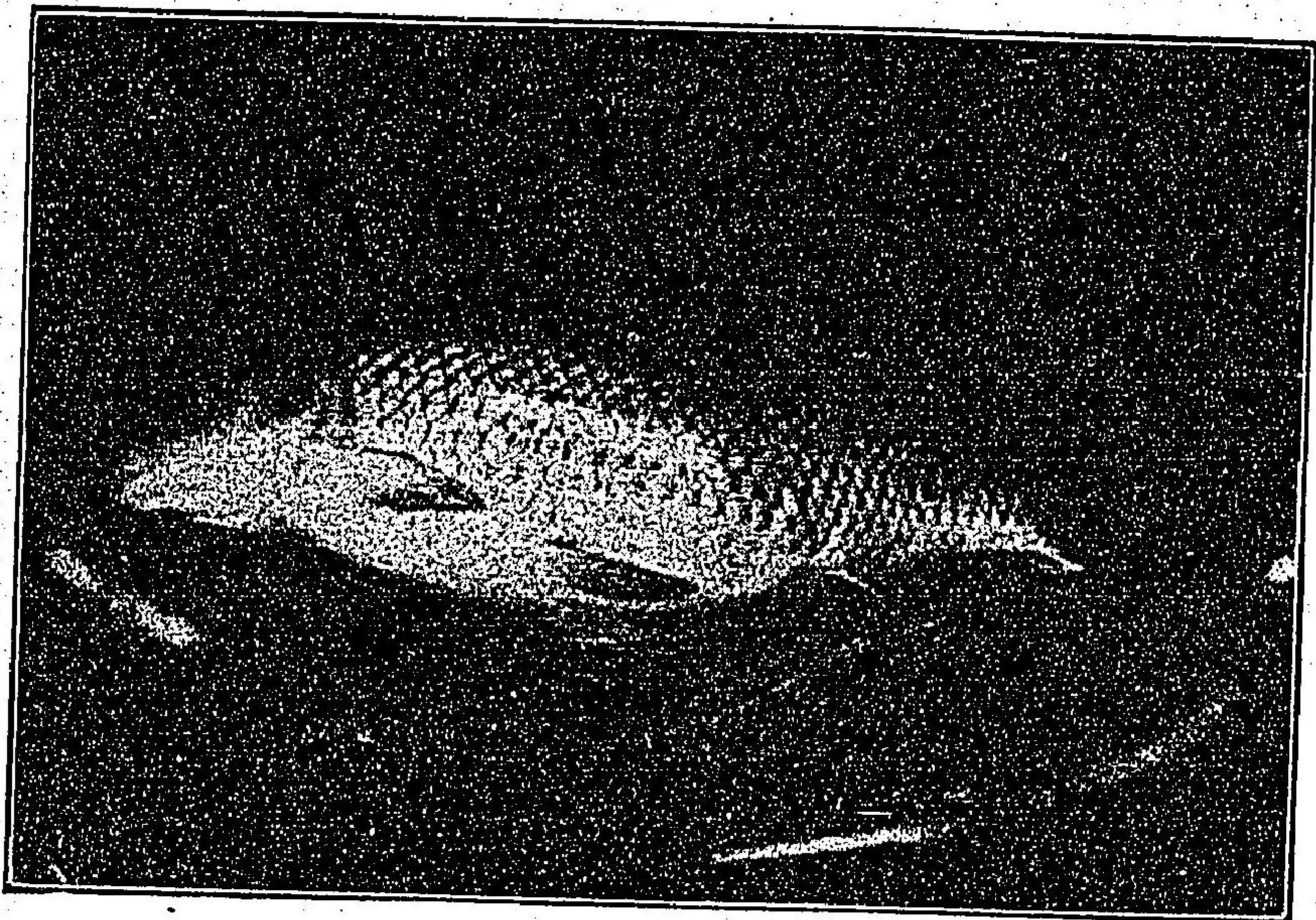
親魚ハ極メテ良種ヲ撰マザレバ前ニモ述ベタルカ如ク緋

鯉斑鯉等ヲ産出スベシ宜シク注意スベキナリ
雌魚ハ總テ八九年ヲ經テ一貫目以上ニ達シタルモノヲ良トス其産出セル卵ハ少シク髓甲色ヲ帯ビ透明ニシテ其質完全ナルヲ以テ能ク無難ニ孵化スルノミナラズ魚兒ノ成長モ亦甚ダ速ナリトス之レニ反シテ未ダ前述ノ年數及重量ニ達セザルモノ、産ミタル卵ハ少シク白色ヲ帯ビ其質完全ナラズシテ腐敗シ易シ然レドモ多少孵化セザルニアラザルモ魚兒軟弱ニシテ斃レ易ク隨テ成長モ亦遅カラザルヲ得ズ
雌魚ニシテ第一圖ノ如ク腹部ノ細長ク膨ミタルモノ、産出セル卵ハ善ク孵化シ之レニ反シテ第二圖ノ如ク圓ク垂レテ膨ミタルモノ、産出セシ卵ハ其腐敗シ易キハ多年ノ

第一圖



第二圖

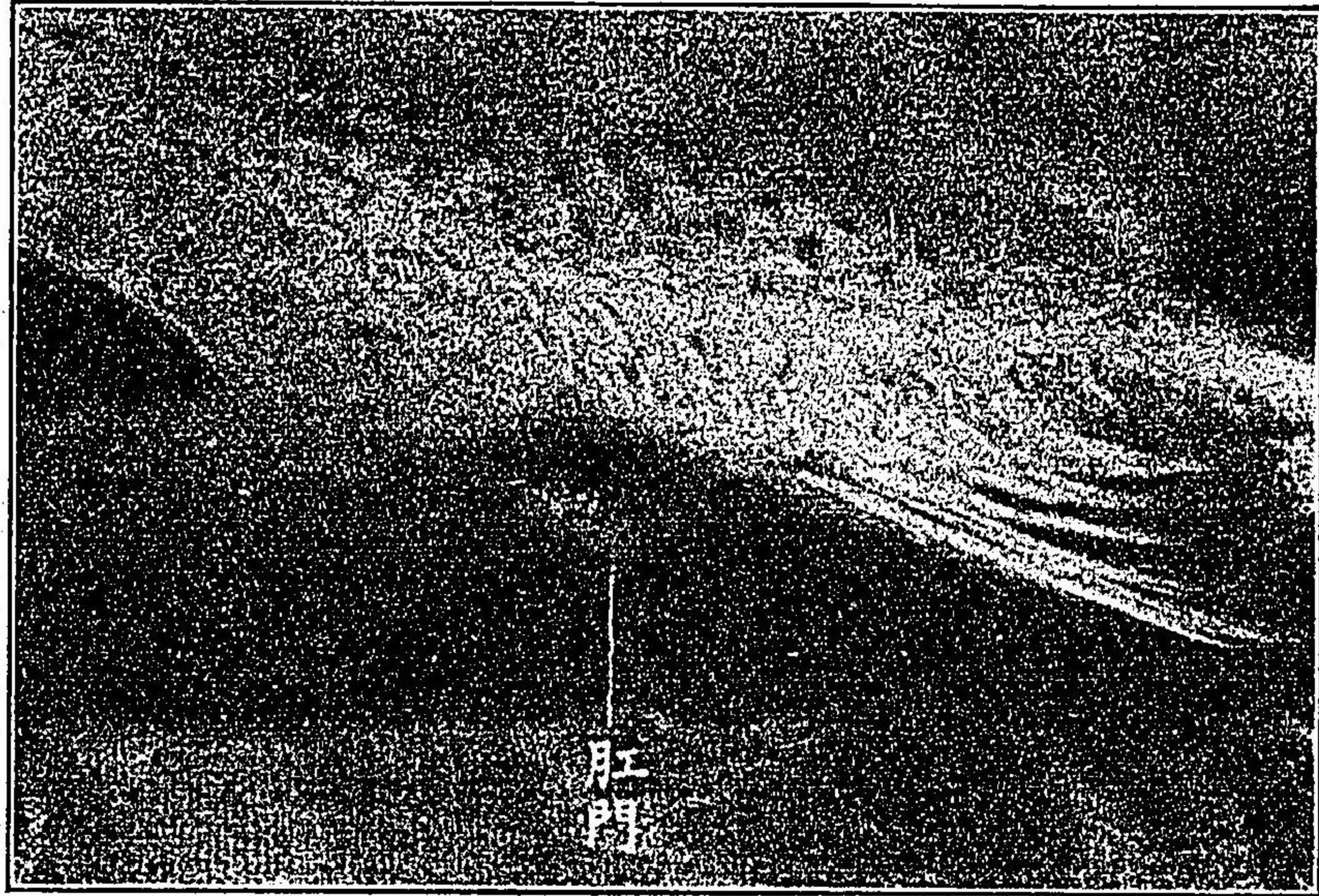


富國全書

四

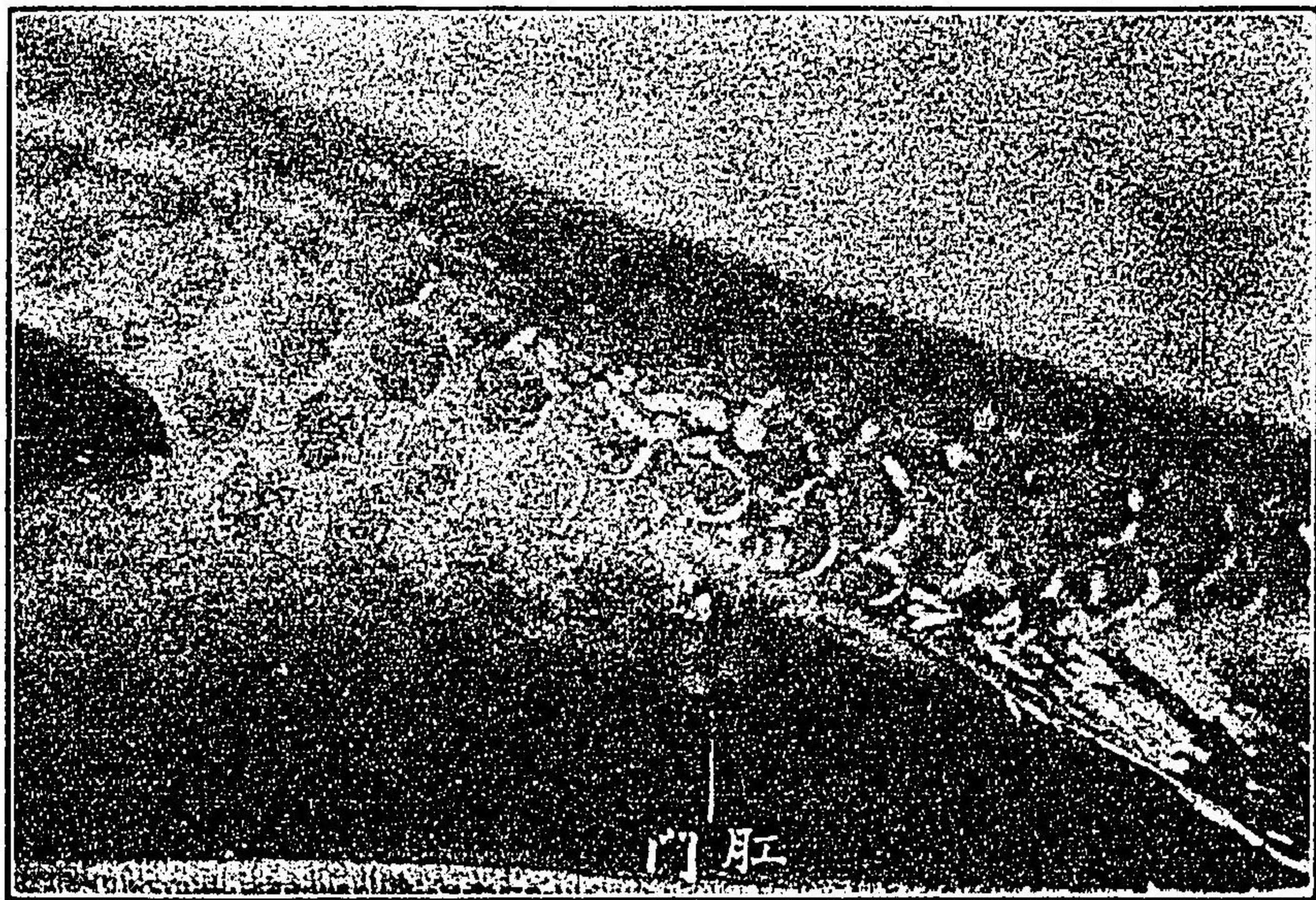
實驗ニ依テ知り得タリ養鯉家ノ宜シク注意スベキ要點ナ
 リ
 産期ニ迫リタルトキハ腹ノ下部非常ニ柔軟トナリ恰モ薄
 紙ニ包ミタル水ヲ外部ヨリ撫スルガ如キノ感アリ又雄魚
 ノ腹ノ下部ヲ柔カニ壓ユレハ必ず精液ヲ洩ラス其未ダ之
 ヲ洩ラサ、ルモノハ尙時期ノ至ラザルモノト知ルヘシ
 非常ニ肥滿シテ脂肪ニ富マル親魚ハ用フ可カラズ何トナ
 レバ其産出シタル卵ハ悉ク腐敗シテ孵化セザルヲ以テナ
 リ
 雄魚ハ五六年ヲ經テ五百目前後ニ至リタルモノヲ可トス
 其雌雄ノ別ハ雄魚ハ第三圖ノ如ク肛門凹ニ雌魚ハ第四圖
 ノ如ク扁平ナルニ由リ容易ニ之レヲ辨知スルヲ得ベシ

圖 三 第

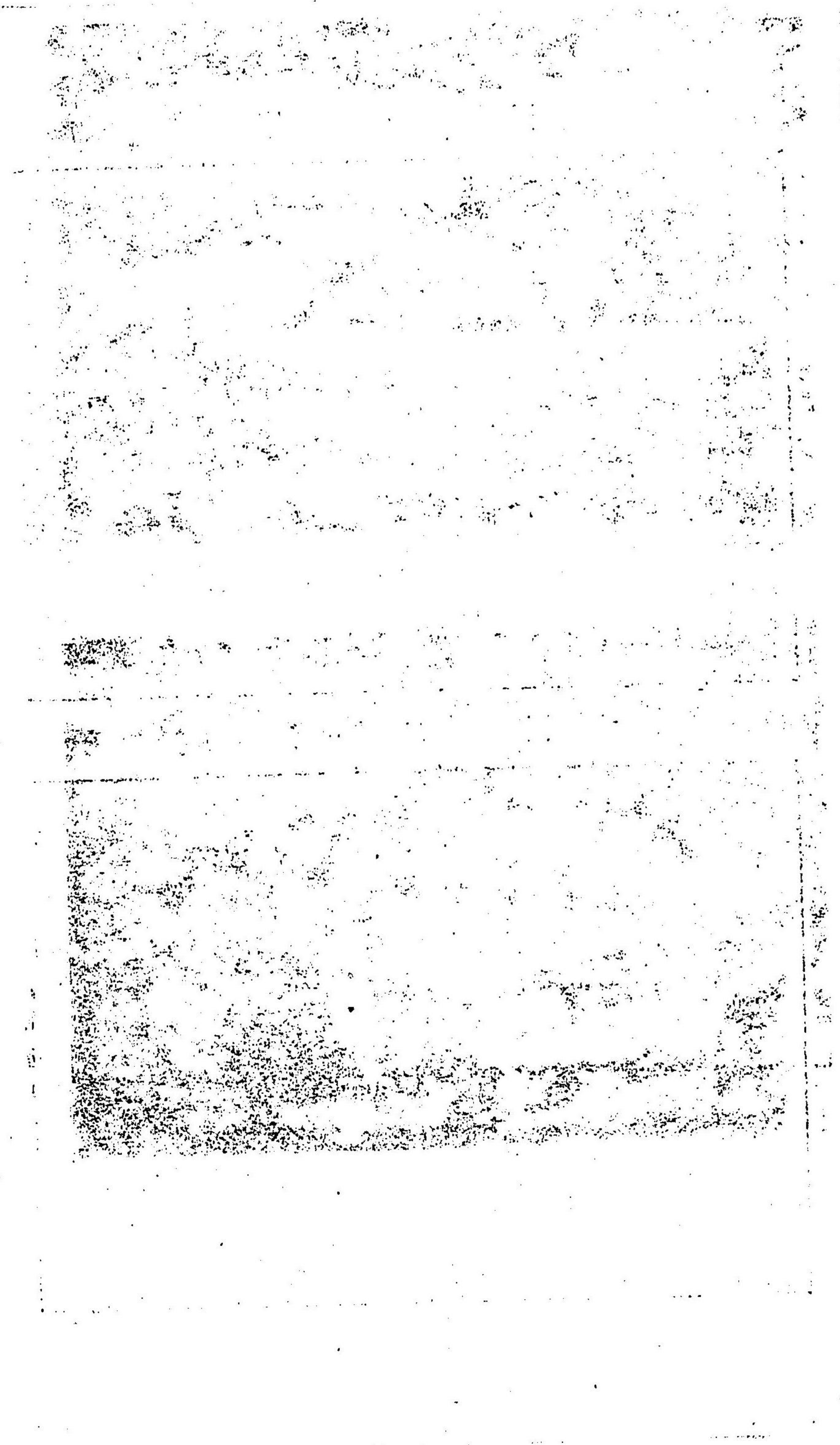


雄
魚

圖 四 第



雌
魚



養

鯉

法

五

雄魚ハ頭短ク胴狭ク鰭硬クシテ下腹部ニ膨ミナシ
 雌魚ハ頭長ク胴平カニ鰭柔カナリ殊ニ産期前ニ至レバ腹
 部一層肥大トナルナリ

産卵池

産卵池ハ方七八尺深サ水附キ一尺位ニ作り底面ヲ石灰ノ
 叩土ニシ周圍ハ板ニテ張ルヲ瓦トス叩土ノ「ア」ヲ去ルニ
 ハ叩土ノ上ニ鹽若クハ明礬ノ汁ヲ塗り一旦乾燥シテ后チ
 數回水ヲ浸シテ流シ去ルカ又ハ數日間尿水ヲ浸シ置ベシ
 而シテ更ニ口徑六七分ノ管ヨリ淨水ヲ引入レザルベカラ
 ズ其淨水ハ可成溜水ヲ入ル、ヲ瓦トス何ソトナレバ流水
 ハ冷カニシテ溜水ハ温カナリ然ルニ其水冷カナルトキハ

産期ニ迫ルモ脚蹠シテ發卵シ得ザルヲ以テナリ

孵 化 池

孵化池ハ日當リ能キ所ヲ撰ミ方八九尺深サ水附キ六寸許
リニ作り底面ハ叩土ニシテ「アク」ヲ去リ又ハ粘土ヲ以テ衝
キ堅メ其上ニ能ク洗ヒタル細砂ヲ厚サ二寸許リ布キ其周
圍ハ板張リトシ口徑五分許リノ管ヲ以テ温カナル淨水ヲ
引入ルベシ
孵化池ハ成ルベク稚魚放養池ニ接近シタル所ニ設クルヲ
便利トス

稚 魚 放 養 池

養

鯉

法

稚魚放養池(ツムシ田)ハ廿坪許リニ作り凡ソ苗代田ヲ作ルガ
如ク池中ヲ攪拌シ二寸程泥土ヲ貯ヘ其上六寸許リニ水ヲ
浸シ而シテ人糞四斗餘ヲ撒布シ置クベシ然ルトキハ十五
六日ヲ經テ夥ク微細ナル小虫ヲ發生ス(ツムシ田)是レ稚魚ノ餌
トナルモノナリ
稚魚放養池ハ地盤ヲ傾斜ニ均シ魚兒ノ水ト俱ニ停滯ナク
排キ易キ様作ルベシ
人糞ヲ撒布シ池水ノ腐敗スルニ隨ヒ水ハ鶯羽色ヲ帯ビ尙
ホ數日ヲ經ルトキハ池面一帶青海苔ノ如キモノヲ以テ蔽
フニ至ル然レドモ池底ニ在リテハ能ク澄ミ渡リ其「ツムシ」
ヲ發生スルモノナリ
稚魚放養池ノ魚兒ヲ捕ヘタル後ニ於テハ又能ク之ヲ攪拌

シテ一日日光ニ晒シ害虫ヲ殺シ又原ノ如ク傾斜ニ作り人糞ニ半餘(最初ノ)ヲ撒布シ置クベシ果シテ「ツムシ」ノ發生スルト初メノ如クナルベシ

水ハ蒸發シテ減耗スル分量ノミヲ注入シ少シモ換流セザル様注意スベシ

一般ノ養鯉家ハ總テ人糞ヲ用キルヲ通例トスレトモ予ハ近來人糞ニ代フルニ牛糞二十貫目ニ味噌糟十貫目ヲ以テセリ此ノ如クスレバ「ツムシ」ノ發生スルコト大ニ人糞ニ優レルヲ見ルナリ

當 歲 魚 飼 養 池

池ノ廣狹ハ適宜ナレトモ假リニ之ヲ百坪トシ周圍ニ高サ

三尺ノ土堤ヲ築キ水ノ深サヲ三段ニ區分シ即チ水ノ入口ニ接シタル處ノ三十坪餘ヲ深四寸トシ其次三十坪餘ヲ深六寸トシ水ノ排キ口ニ接シタル所ノ三十坪餘ヲ深八寸トスベシ而シテ鯉兒ノ成長スルニ隨ヒ凡三十日ヲ經ル毎ニ水ノ排キ口ニ於テ之ヲ加減シ漸次ニ二寸程ヅ、深クシテ九月末ニ至リ上段一尺二寸中段一尺四寸下段一尺六寸位ノ水附キト爲スベシ

鯉兒ヲ放ツテ後一ヶ月間位ハ極少量ノ水ヲ入レ餘リ換流セザル様ニ注意シ而シテ魚ノ成長スルニ應ジテ漸次水量ヲ増シ終ニハ口徑二寸以上ノ樋管ヨリ充分之ヲ注入スベシ

二 歲 魚 飼 養 池

當歲魚飼養池ノ如ク深サヲ三段ニ別チ最初ハ上段六寸中
段一尺二寸下段一尺八寸位トシ漸次水ヲ浸シテ十月ニ至
リ上段一尺三寸中段一尺九寸下段二尺五寸程ノ深サトス
ベシ

三 歲 魚 飼 養 池

三歲魚飼養池ハ深淺二段ニ別チ始終淺キハ一尺五寸深キ
ハ二尺五寸位トスベシ四歲以上ノ魚ト雖トモ是ヨリ深ク
スルトキハ其成長ニ害アルモノナリ

親 魚 飼 養 池

親魚飼養池ハ假リニ長八間幅四間ニ作り深サ一尺五六寸
ノ水ヲ淺シ四月初旬ニ至リ竹簀ノ如キモノヲ以テ池ノ中
央ヲ界シ甲乙ノ二所ニ分チ悉ク親魚ヲ捕ヘテ之ヲ甲所ニ
集メ其當日ヨリ餌ヲ與フベシ此ノ如クスル理由ハ池ノ面
積廣キトキハ親魚ガ餌ヲ平等ニ食セザルノミナラズ産卵
池ニ移スノ際之ヲ捕フルニモ亦不便ナレバナリ
乙所ニハ既ニ産卵シタル魚ヲ放ツベシ
親魚飼養池ニハ常ニ一定ノ水ヲ注ギ決シテ各所ノ水ヲ引
キ入ル可カラズ是レ其變質ノ水ニ遇ヘバ直ニ産氣ヲ催シ
飼養池ニ於テ産卵シ終ルコトアレバナリ

親魚飼養池ニ雌雄混同シ置クモ斷ヘズ餌ヲ與ヘテ變質ノ水ヲ入レザレバ六月下旬迄産卵スルヲ無シ然レドモ其場所ヲ換フレバ直ニ産氣ヲ催ス故ニ産卵池ニ移スノ前ニ於テハ決シテ他ノ池ニ容レ又ハ他ノ池魚ヲ放チ或ハ餌ヲ斷ツ可カラズ

冬季貯藏池

冬季假リニ一千貫ノ鯉ヲ貯フルニハ方八九間位ノ池ニ於テ深カ四尺以上ノ水ヲ浸シ善ク換流セシメ笹又ハ樹木ノ枝等ヲ投シ置クベシ但シ水瀬ノ襲フベキ恐レアル地ニ於テハ板垣ヲ設ケテ之ヲ豫防スベシ
總テ何レノ池ニ在リテモ中央ニ別段方十尺前後ノ凹所ヲ

作り薪柴ノ類ヲ投シ置クベシ魚ハ常ニ此處ヲ潜伏所トシ物ニ驚キタルトキノ如キハ必ズ逃匿シ又寒暑ヲ避ルノ所トモ爲スナリ

産卵

予ガ養魚場ノ氣候ハ前十數年平均極寒室外華氏十四度五分極暑九十七度ナリ故ニ此養鯉法ハ總テ此氣候ニ基キテ叙述スルモノナリ
予ハ毎年四月十五日ヨリ六月上旬迄ヲ以テ産卵セシムルヲ例トセリ先ヅ其四月十五日ヲ以テ産卵セシメントスルニハ最初四月一日ヨリ引續キ十三日朝ニ至ル迄親魚飼養池ニ於テ其親魚ニ充分ノ餌ヲ與ヘ而シテ十四日ノ朝ニ至

リ唯一雄ニテ産卵池ニ移シ魚巢(卵ヲ産)ヲ繩ニ挾ミテ池ノ周
邊ニ浮ベ置クベシ然ルトキハ大概十五日ノ拂曉ヨリ發卵
スルモノナリ
雌魚ガ魚巢ニ躰ヲ摩リ卵ヲ産ミ附ル時ニ方リ前後ニ纏綿
追随スル所ノ雄魚ハ直ニ其卵ニ精液ヲ注射ス是ヲ交尾ト
ス
一貫目ノ雌魚ヲ入ルレバ四百目前後ノ雄魚二尾ヲ入レ若
クハ三百目以上ノモノ三尾ヲ放ツベシ雄魚ノ大ナルモノ
ハ交尾ノ際敏捷ニ活潑ナル働キヲ爲シ得ザルヲ以テ卵ニ
精液ノ掛ラザル所アリ精液ノ掛ラザル卵ハ孵化スルコト
ナキモノナレバ宜シク注意スベキナリ
魚巢ニ陳ラニ産卵ノ附着スルヲ見ハ探リテ速ニ孵化池ニ

移シ其跡ニハ代リノ魚巢ヲ挾ミ置クシ但シ産卵ノ附着密
ニ過キルトハ終ニ腐敗シテ孵化スルコト少キモノナリ
雨天ニ産出シタル卵ハ腐敗シ易シ故ニ成ルベク快晴ノ日
ニ於テ産卵セシムベシ
若シ稚魚ニテ販賣スベキ目的ナレバ四月中旬ヨリ産卵セ
シムルヲ良トス而シテ飼育ノ目的ナレバ五月初旬ヨリ産
卵セシムルヲ良トス何トナレバ冷氣ノ候ニ於テハ仕損シ
多ク且ツ四月中旬若シクハ五月上旬ニ孵化シタルモノト
雖モ秋季ニ至レバ同様ニ成長シテ少シモ異ルコト無キヲ
以テナリ
其産卵ハ午前五時ヨリ始マルトスレバ凡ソ午前十時迄ニ
終ルモノトス

孵化

其既ニ産卵シ終レバ更ニ親魚ヲ取替ヘテ放ツベシ

産池ヨリ孵化池ニ移シタル魚巢ハ水面ニ出ザル様疎ラニ薄ク泛ベ置クベシ必ズ厚クス可カラズ之ヲ厚クスルトキハ其腐敗シ易キノミナラズ爲メニ日光ヲ蔽遮スルノ恐レアリ是レ日光透ラザル所ノ卵ハ一兩日孵化ニ遅レ隨テ發生兒ニ不揃チ來シ飼養上不便少カラザルヲ以テナリ

魚巢ヲ孵化池ニ移シテ三日ヲ經レバ卵中ニ極微細ナル黒點二個ヲ生ズ是レ魚兒ノ眼ナリトス此黒點ノ見ハレテヨリ又三日ヲ經テ始メテ孵化スルニ至ルモノナリ

五月中旬後ニ至レバ産卵後五日以内ニ盡ク孵化スルモノ

ナリ

魚兒ハ孵化後三日間魚巢ヲ離レズ其四日目ニ及ビ始メテ池中ヲ游泳スルニ至ルモノナリ

一般ノ養鯉家ハ總テ魚巢ヲ離レテヨリ六七日間孵化池ニ於テ餌ヲ與ヘ其餌ニ附キテ後「ツ虫」ノ發生シ居レル池ニ放ツテ例トシ予モ亦從來此法ヲ用キタリシガ近年ニ至リ魚巢ヲ離ルレバ直ニ未ダ「ツムシ」ノ發生シ居ラザル池ニ移スノ利益ナルコトヲ發明セリ

先年魚兒ノ魚巢ヲ離ル、ヲ待チ直ニ其半數ヲ稚魚放養池ニ(未ダツムシノ)移シ殘ル半數ニハ例年ノ如ク孵化池ニ於テ

雞卵ノ黄味「ツムシ」鳥獸類ノ血液等ヲ與ヘ置キ六日ヲ過テ後前ニ放養池ニ移シタルモノト比較スルニ其放養池ニ移

シタルモノハ殆ンド二倍ノ大カニ成長シ頗ル健全ナリシ
 ガ孵化池ニ遺シタル分ハ纔ニ餌ヲ需ムルニ至リシ迄ニテ
 尙甚々微弱ナリキ
 孵化シタル際ハ極微細ニシテツムシ雜卵等ノ餌ハ自由ニ
 食シ得ザルモ「ツムシ」ノ未ダ生ゼザル汚水ニハ人目ニユツ
 觸レザレドモ一面微細ナル動物ノ生シ居レルヲ以テ如何
 ニ軟弱ナル魚兒モ隨意ニ之ヲ食シ得ルモノナリ又此微細
 動物ガ日ヲ經テ生長スルトキハ鯉兒モ亦之レニ應ジテ成
 長スルヲ以テ終ニハ之ヲ喰ヒ盡スニ至ルモノナリ
 既ニ「ツムシ」ノ發生シタル池ニハ之レニ伴フテ害虫モ亦多
 ク發生シ居レリ故ニ微細ナル魚兒ヲ此中ニ放ツトキハ害
 虫ノ爲メニ驚カル、ユト少カラズ其「ツムシ」害虫共ニ未ダ

人目ニ視ヘザル前ニ於テ魚兒ヲ放テバ總テ魚兒ノ食餌ト
 ナリ害虫ノ生ズルユト至テ少キモノナリ
 一尾ノ親魚ヲ以テ矩合能ク孵化セシムルトキハ凡ソ八九
 萬ノ魚兒ヲ得ルユトハ容易ナリ
 孵化兒ヲ稚魚放養池ニ移スニハ孵化池排水口ノ栓ヲ抜キ
 其下ニ桶ヲ受ケ桶ノ中ニ又目ノ疎ナル寒紗ニテ作リタ
 ル摺鉢形ノ裏ヲ箝メ其中ニ落シ込ムベシ水ハ溢レ去ツテ
 魚兒ハ其中ニ集合セルヲ以テ椀ノ類ニテ水ト共ニ他ノ桶
 ニ汲出シ稚魚放養池ニ運ブモノトス
 稚魚放養池ニ接シタル所ニ於テハ繩ヲ架シ流シ込ムモ亦
 可ナリ
 稚魚放養池ニ移シテ凡廿日間ヲ經レバ更ニ當歲魚飼養池

ニ移スカ或ハ之ヲ賣拂ヒ得ベシ

餌 料

稚魚ニハ「ツムシ」ヲ最上ノ餌トス次ニハ「アカユ」(蚯蚓ニ肖タルモノノ如キ微細ナルモノ)

乾蛹ノ粉麥粉米糠等ナリ

魚兒ガ一寸以上ニ至ル頃ハ新蛹ノ得ラルベキ時期ナルヲ

以テ是ヲ能ク潰シテ與〜以テ常食トナスベシ若シ蛹ノ乏

シキトキハ米麥ノ碎キタルモノニ少許ノ鹽ヲ加ヘ能ク煮

熟シテ之ヲ與フベシ又味噌粕乾鰯等ヲ能ク碎キテ投スル

モ可ナリ

多額ノ鯉ヲ養ハノニハ常用一定ノ餌料無クンバ以テ其目

的ヲ達スルコト能ハズ而シテ海邊ニ在テハ貝類其他種々

養

鯉

法

ノ餌料ニ富マルモ其海ニ遠キ地方ニ於テハ蚕蛹ノ外曾テ

適當ノ餌料アルナシ故ニ其蛹ノ得難キ地方ニ於テハ以テ

多額ノ魚ヲ養ヒ難シト雖ドモ近年到ル處養蠶家アリ製絲

家アリ之ヲ需ムルニ於テ殆ト差開ナキニ至レルガ如シ

二歳以上ノ魚ニハ毎年五月十五日ヨリ六月十五日迄煮熟

セシ麥ヲ毎日少許ツ、與〜以後十月末ニ至ル迄ハ成長ノ

度ニ應ジテ蛹ヲ適當ニ投與シ而シテ十一月一日ヨリ漸次

減少シ十五日ニ至リ全ク停止スベシ四歳以上ノ魚ハニ四

月中旬ヨリ之ヲ與ヘテ可ナリ

麥ハ前日ヨリ水ニ浸シ置キ遠火ニテ緩々燻クトキハ其量

四倍ニ及ブモノナリ

其麥ヲ與フルハ之ヲ成長セシムルノ目的ニ非ズ唯其瘦瘠

ヲ防グニアルノミ

親魚ノ餌ノミハ十月中旬ニ至リテ之ヲ停止スベシ決シテ十一月中旬迄與フベカラズ是レ翌春ニ至リ脂肪滿チテ産卵ニ害アレバナリ

當歲二歲魚ニハ凡ソ十貫目ニ對シ毎日蠶蛹二升三歲以上ノ魚ニハ一升五合ノ標準ヲ以テ與フ可シ(生蠶ヲ引キタル蠶ハ一升三百四十目乾蠶ヲ引タル蠶ハ一升二百八十目アリ)

稚魚ニハ蛹ヲ能ク搗キ米糠又ハ味噌糲ヲ混同シテ之ヲ與ヘ二歲ニハ蛹ヲ半潰ニシ三歲ニハ全躰ノ儘與フベシ餌ハ成ベク數個所ニ於テ與フルヲ良トス是レ一部分ニ於テノミ之ヲ與フルトキハ魚ハ常ニ其所ニ集合シテ去ラズ故ニ養池ノ大ナルモノモ其効用却テ小ナル養池ニ異ラザ

ルノ憾アレハナリ

餌料ハ尙種々アレドモ價格低廉ニシテ多量ニ得易キモノ無キヲ以テ皆省略シテ茲ニ之レヲ掲ケズ

飼養ノ尾數及成長ノ度

魚兒ヲ稚魚放養池ヨリ當歲魚飼養池ニ移ストキハ一坪ニ付キ百尾ノ割ヲ以テ放チ毎月一回ヅ、池中ヲ浚ヘ成長ニ遅レタルモノヲ取除キ(此際害虫ヲ捕獲スヘシ)九月末ニ至リ一坪ニ廿尾前後ヲ存スベシ

成長ニ遅レタル魚兒モ「ツムシ」ノ發生シ居レル池又ハ肥料氣アル稻田ニ移ストキハ魁ケシタル他ノ魚兒ニ追及シテ之レト同等ニ成長スルモノナリ

魚兒ヲ稻田ニ放ツニハ一坪ニ四尾ヲ適度トス而シテ秋季
 水ヲ排スル頃ニ及ビ大概一坪ニ一尾半位ノ割合ニ減少ス
 ルモノナリ但シ濬田ニハ之ヲ放ツベカラズ是レ成長ノ度
 願ル低クケレバナリ
 二歳魚ハ飼養池一坪ニ付十尾ヲ放テ三歳魚ハ一坪ニ付七
 八尾乃至十尾ヲ放テ餌ヲ與ヘツ、之ヲ販賣スベシ而シテ
 四歳迄養ヒ置クハ全ク不利益ナリトス
 當歳魚ハ十月末ニ至リ廿五匁乃至百三十匁ニ至リ二歳魚
 ハ七十匁乃至四百匁ニ至リ三歳魚ハ百五十匁乃至五百五
 十匁ニ至ルモノナリ
 四百目以上五百目以下ノ魚ハ平均一年ニ百八十目位増加
 シ五百目以上六百目位迄ノ魚ハ平均一年ニ百三十目位増

加シ漸次重量ノ加フルニ随ツテ成長ノ度減少スルモノナ
 リ
 明治三十四年ニ毎月ノ成長ノ度ヲ試験シタルニ其成績左
 ノ如シ

二歳魚十貫目(此百九十五尾)ヲ六月十五日
 面積十八坪ノ池ニ放ツ

| 調査月日 | 重量 | 毎月増加ノ重量 |
|-------|---------|---------|
| 七月十五日 | 十三貫 三百目 | 三貫 三百目 |
| 八月十五日 | 十七貫 百目 | 三貫 八百目 |

| | | |
|--------|---------|-------|
| 九月十五日 | 二十二貫目 | 四貫九百目 |
| 十月十五日 | 二十七貫六百目 | 五貫六百目 |
| 十一月十五日 | 二十九貫二百目 | 一貫六百目 |

右ノ成績ニ依レバ六月十五日ニ於テ十貫目ヲ放チタルモ
 ノ十一月十五日ニ至リ廿九貫二百目ニ達セシナリ然レド
 モ其中間調査等ヲ爲サズシテ飼養スレバ必三十貫以上ニ
 及ベルユト疑ナシ是レ調査ノ度々多少其魚ヲ損傷スルモ
 ドアルヲ以テ其成長上關係ヲ及ボスガ故ナリ

害 敵

獸ニ在リテハ水獺鮒水鼠ノ害敵ナルユトハ皆人ノ知ル所
 ナリト雖モ通常ノ鼠モ亦水鼠ニ劣ルユト無ク游泳自在ニ
 シテ冬季魚兒ノ集合セルトキノ如キハ容易ク之レヲ捕食
 スルモノナリ

僻陬ノ地ニ於テハ狸モ亦巧ニ池魚ヲ掠メ去ルト云フ
 鳥ニ在リテハ翡翠鷲類ニヨリ其他水禽ハ概テ害敵ナリト知
 ルベシ

斯カル鳥獸ノ捕獲方法ハ種々アレドモ第一之ヲ銃殺スル
 ナ便トス其中「ゴイ鷲」ノ如キハ夜間ニ來襲スルヲ以テ銃殺
 スルユト固ヨリ難シ是等ノ如キハ釣ニ餌ヲ附シテ彼レガ

法 鯉 養

來ルベキ要所ニ投シ置キ鈎獲スルノ策ヲ施スナ可トス
虫ニ在リテハ剪刀虫(數種)「ヤゴメ」(數種)龜虫蛭其他種々ノ
害敵アレトモ到ル所各名稱ヲ異ニシ一般ニ通シ難クレバ
茲ニ説明ヲ省キヌ養魚家ハ宜シク實地ニ就テ經驗シ適當
ナル方法ヲ設ケ以テ其驅除撲殺ニカムベシ
稚魚放養池ノ水際ニ倒マニ附着シ居レル小動物ハ總テ害
虫ト知ルベシ
虫類ヨリ尙恐ルベキハ鈔類ナリ「ムツ」モロユ等ノ棲息スル
池ニ稚魚ヲ放ツトキハ恰モ稚魚ガ「ツムシ」ヲ食スルガ如ク
之ヲ食スルモノナリ

魚病

魚病ニ種々アリト雖モ其中魚ノ最モ多ク露ルモノハ「ド
ロカム」病是ナリ而シテ之レニ二種アリ一ハ外部ヨリ發
シ一ハ内部ヨリ發ス之レ孰レモ魚體ニ泥土ノ如キモノヲ
帶ベリ故ニ泥冠ノ名アリ外見ニ於テハ二種ノ病質毫モ區
別スル所ナキモノ、如クナレドモ實際全ク相異ナル所ア
ルモノナリ
外部ヨリ發レルモノハ概テ冬季又ハ春日未ダ暖カナラザ
ル前ニ於テ其魚ヲ粗略ニ取扱ユルニ起因ス總テ魚鱗ニハ
滑ナル粘液アリテ之レヲ粗暴ニ取扱籠桶等ニ於テ身體ヲ
摩擦スルコトアルトキハ直ニ其部分ノ粘液ヲ失フ殊ニ氣
候ノ冷カナル時ハ魚ニ勢力無ク池底ニ靜息スルヲ以テ粘
リ無キ部分ニハ自然水垢附着シ此所ヨリ腐敗シテ遂ニ死

ニ至ルコトアリ故ニ此病ニテ斃ル、モノハ大概五月以前
 ニアリ因テ飼養スベキ魚ハ冷氣ノ候ニ取扱フベカラズ
 此外部ヨリ發リタル泥冠リ病ニシテ延テ五月以後ニ涉ル
 ルモノハ或ハ快復スルコトアルモノナリ
 内部ヨリ發スルモノハ氣候ノ寒キ頃ヨリ餌ヲ與ヘタルニ
 起因ス三月中ヨリ乾蛹ノ如キモノヲ與フレバ五月上旬ニ
 至リ必ズ此病ヲ發セザルコトナシ其少シク灰色ヲ帯ビ鱗
 ニ光澤無キモノハ既ニ此病ニ罹リタルモノトス故ニ漸次
 體ノ各部ヨリ腐爛シ遂ニ死ニ至ルモノナリ
 池中ニ於テ此病ニ罹リタル魚アルコトヲ認メタルトキハ
 直ニ池水ヲ涸ラシ悉ク魚ヲ捕ヘ一々検査シテ無病ナルモ
 ノ、ミヲ探リ一旦別池ニ移シ置キ涸シタル魚病池ニ人糞

ヲ撒布シ一日日光ニ曝シ又水ヲ浸シテ前ニ検査シ置タル
 所ノ魚ヲ取り更ニ一尾ヅ、再檢シテ此ニ容ルベシ如斯ニ
 シテ餌ヲ五六日間停止シ置ケバ病根ヲ絶ツコトヲ得是レ
 予ガ親カラ實驗セシ所ナリ
 此病魚ヲ淨水ニ放ツトキハ病勢益熾ンニシテ愈蔓延スル
 モノナリ既ニ一タビ此病ニ罹リタル以上ハ決シテ快復ス
 ルコト無キモノ、如シ但シ此病ハ二歳魚ニ多ク三歳魚ニ
 鮮ク四歳以上ハ絶無ナリトス
 二歳三歳ノ魚ニ對シ冷氣ノ候ヨリ乾蛹ヲ與フレバ前述ノ
 如ク泥冠リ病ニ罹ルモノナリ但シ年數ヲ經タル親魚ニ於
 テハ此病ニ罹ルコトナシ然レドモ交尾ノ際ニ至リ雄魚ハ
 少シク茶褐色ヲ帯ビタル精液ヲ發シ雌魚ハ一見異ナルコト

ト無シト雖モ其産卵皆腐敗シテ膿化スルコトナキモノナ
リ
又一種眼球ノ突出スル病アリ是レハ水ノ充分換ヲサル池
ニ於テ多量ノ餌ヲ與ヘタルニ起因ス是亦不治ノ病ニシテ
當歳魚ニ多クニ歳魚ニハ概シテ少シトス
魚體ニ「ハリガ子虫」(細長キモノ)ノ生ズルコトアリ是レ水ノ交
代不充分ナル所ニ向テ多數ノ魚ヲ容ル、ニ原因ス此虫最
初ハ鱗ノ間ニ生シ血液ヲ吸收スルモ漸ク皮肉ニ食込ニ終
ニ魚ヲ斃スコトアリ然レトモ魚ノ未ダ羸瘦セザル前ニ於
テ水ノ能ク交代スル池ニ移セバ自然此虫絶ユルコトアリ
此虫ノ蟄伏スル部分ハ鱗ニ紫色ヲ帯ビ少シク膨起スルヲ
認ム其膨起セル所ヲ指頭ニテ壓ユレバ虫ハ鱗ノ外ニ出ル

ヲ以テ容易ク取り得ラル、モノナリ
魚ノ口ヲ自由ニ開閉セザルモノハ鰓ニ故障アル難治ノ病
アルモノト知ルベシ是等ノ病ハ多クハ魚ヲ捕フルトキ網
絲ノ腮ニ掛リテ鰓ノ擦傷サレタルヨリ起レルモノナリ
魚病ニ尙ホ種々アレトモ其重ナルモノハ前述ノ外ナケレ
バ他ハ之レヲ省略ス

雜錄

鯉ニ一番兒ニ番兒ト云フコトアレトモ鯉ハ一年一回ヨリ
産卵セザルモノナリ
産卵池ニ於テ餌ヲ與フルトキハ豫定ノ時刻ニ遅レテ産卵
ス

産期ニ近ツキタル雌魚ヲ別池ニ移セバ雌魚ノミニシテ産卵スルユトアリ然レドモ是等ノ卵ハ決シテ孵化セザルモノナリ
 冬季貯藏池ノ如キモ夏時ニハ水ヲ淺クシテ養成池ト爲スベシ
 魚ノ大小ヲ混同シテ一處ニ飼フ可カラズ小ハ大ニ制セラレテ成長スルユトヲ得ザレバナリ
 與ヘタル餌ハ二時間内ニ食ヒ盡スヲ適度トシ二時間ヲ經テ尙ホ存スルモノハ餌量ノ多キニ過ルモノト知ルベシ
 餌ハ毎日一回與フレバ可ナリ
 蛹ニハ往々繭ノ薄皮ヲ被リタルモノアレドモ是等ハ其儘魚ニ與ヘテ決シテ害アルユトナキナリ

養

經

法

毎日餌ヲ投ズル場所ハ砂礫ノ混交シタル粘土ニテ能ク衝キ固メ置クベシ然ラザレバ魚ノ集散ニ依テ地盤自然ニ凹レ其池ヲ浚渫スル時ニ當リ水其凹所ニ潑澱シテ魚ヲ捕フルニ不便ナレバナリ
 池ヲ浚渫スルニハ前日ヨリ準備シ置キ翌早朝ニ魚ヲ捕ヘ終ルベシ若シ之ヲ日中ニ行フトキハ多ク魚ヲ害スルユトアリ
 浚渫ノ時水ノ將カニ盡ントスル際魚ハ背部半身ヲ水面ニ出シテ躍ルヲ以テ長時間ニ涉ルトキハ背部ヲ日ニ晒サレ鱗ノ乾クユトアリ若シ一旦鱗ノ乾キタルモノハ必ズ變色シテ原ニ復シ難ク終ニハ腐爛スルニ至ルモノナリ
 魚體ノ中部ヨリ以上ノ疵ハ癒ヘ易ク以下ノ疵ハ癒ヘ難シ

池水浚渫ノ時巨多ノ魚ヲ捕フルニ用フベキ網ハ(四ツ)方二尺五寸位ニ製スヘシ是レヨリ大ナルモノハ使用上不便ニシテ實地ノ用ニ適セザルモノナリ
網ノ糸ノ細キモノト目ノ大ナルモノハ魚ノ鱗又ハ腮ニ掛リ魚ヲ害フモノナレバ成ベク太キ絲ヲ以テ目ヲ細カク作ルベシ
網ハ綿絲ヲ以テ作り麻絲ヲ用ユ可カラズ是レ麻絲ハ硬クシテ魚ヲ傷メ又其朽ツルコトモ速クレバナリ
稚魚ノ大小ヲ分ツニハ金網ノ篩ニ入レテ水中ニテ濾過スベシ其小ナルハ下ニ洩落シ其大ハ篩中ニ殘留ス産卵後氣候寒冷ニ變ズルトキハ日没ヨリ日出ニ至ル迄竹簀又ハ薦ヲ以テ孵化池ニ蔽ヲ爲スヘシ

魚巢ニハ柳根又ハ日蔭葛(方言狐)等ヲ長トス日蔭葛ハ多ク深林中ニ生ゼリ
次年ニ用フベキ魚巢ハ前年ニ採收シテ日蔭ニ貯藏シ置キ而シテ之ヲ魚巢ニ供セントスルトキハ淨水ニテ能ク洗滌シ一旦乾シ然ル后ヲ用ユベシ
産卵後一日ヲ經タル魚巢ハ(卵ノ附着シタルモノ)凡ソ二十分間水ニ離シ置クモ無難ニ孵化スルモノナリ故ニ孵化池ノ遠キ地ニ於テハ之ヲ籠ニ容レテ運ブヲ便利トス但シ成ルベク風ニ觸レザル様注意スベシ
産卵池ノ周邊ニハ板ヲ以テ圍ヒヲ爲スベシ是レ交尾ノ際ニハ雌雄俱ニ狂奔シテ水外ニ躍出ルコトアルモノナレバナリ

鯉ノ頸リニ他物ニ就テ身體ヲ摩擦スルモノハ其體ニ虫ノ生シタルモノト知ルベシ

鯉ノ頸リニ水面ニ飛躍スルハ雨天ノ前兆ト知ルヘシ池ノ各所ニ抗チ打チ置キ鯉ノ體ヲ摩擦スル用ニ供スベシ

鯉兒ハ時ニ依リ非常ニ水ノ落下スル所ニ向ツテ飛躍スルコトアリ故ニ土堤際ニ於テ水ノ落下スル所ヲ設ケ置クトキハ魚ノ堤上ニ躍出デ、終ニ斃ル、コトアルモノナリ又蛇蛙ハ其魚ノ飛躍シ出ル所ニ待居リテ巧ニ之レヲ捕食スルモノナレバ是等ニ注意スルヲ要ス

蛙ハ水中ニ於テハ魚兒ヲ捕食スルコトヲ得ザルモノナリ蟹ハ能ク土堤ニ穴ヲ穿ツモノニシテ其穴ヨリ魚ヲ逸セシムルコトアリ

旱魃其他ノ事故ニ因リ水ノ換流セザルコトアルトキハ決シテ餌ヲ投ズ可カラス此際餌ヲ投ズルトキハ忽チ斃死スルコトアルモノナリ

其水ノ不換ニ依テ斃ル、モノハ肥大ナルモノヨリ始マリ順次小魚ニ及ブモノナリ

二歳魚以上ヲ飼養スル池ニハ「ムツ」「オイカワ」ノ如キ常ニ清水ニ棲ムベキ魴ヲ放チ置クベシ水ノ換ヲサルトキ又ハ池水ニ故障ノ生シタルトキハ必ズ鯉魚ニ先達テ斃ル、モノナルガ故ニ其斃ル、ヲ見ルトキハ則チ池水ニ變異アルヲ知リ之カ豫防ヲ爲スコトヲ得ベシ

總テ養成池ニハ緋鯉斑鯉等ノ最モ目ニ觸レ易キモノヲ以テ其目方ト寸尺トヲ量リ二三尾ヅ、放チ置キ之レカ成長

ノ如何ニ依テ其他ノ魚ノ成長ノ程度ヲ知ルニ便スベシ
鯉ハ總テ水質ニ從テ變色スルモノナリ即チ清水ニ容レバ
黒ク濁水ニ置ケバ黄色ヲ帶ブヲ見ルヘシ
地中ヨリ湧出スル淨水ニ飼フ可カラズ此ニ飼フトキハ餌
ヲ投ズルモ成長セズ而シテ餌ヲ投ゼザレバ忽チ瘦瘠スル
モノナリ
總テ池ハ成ルベク地盤ノ高キ所ヲ撰ミ何時ニテモ勞力ヲ
要セズ容易ニ溜カシ得ラルベキ様作ルヲ良トス
池ノ周邊ニハ濕地ニ適スベキ植物ヲ作ルベシ
假リニ稻田一反歩ニ稚魚千二百尾(七代假凡拾貳錢)ヲ放チ置キ別ニ
餌ヲ與ヘサルモ秋季ニ至リ少クモ四百五十尾ヲ存スベシ
然ルトキハ一尾ノ平均二十六匁位トナリテ總計十一貫七

百目トナルヲ以テ之ヲ一貫目壹圓廿錢ノ割ニ賣拂フトキ
ハ十四圓四錢ヲ得ラル、ナリ
但シ本文ヨリ以上ノ多數ヲ飼フベカラス何ントナレ
バ多少稻作ニモ關係ヲ及ボシ魚兒モ亦成長シ能ハザ
ルヲ以テナリ

二歳魚ハ稻田ニ適セス

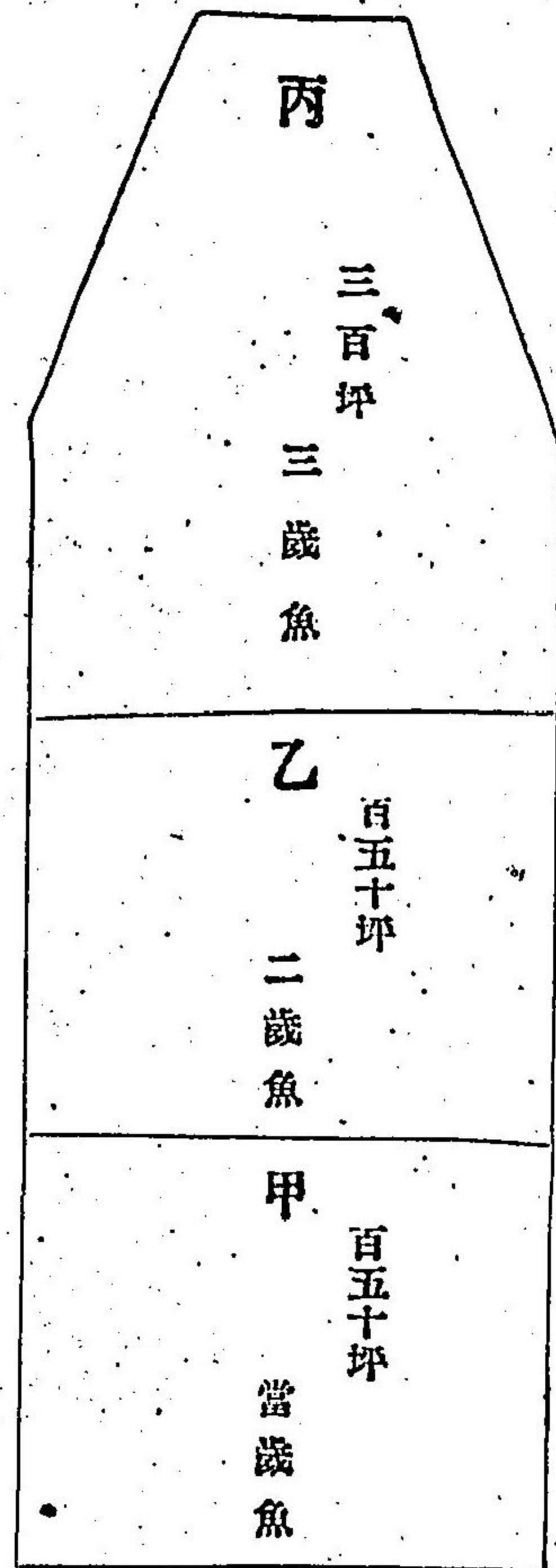
灌溉ノ用ニ築キタル溜池等ニハ多量ノ鯉ヲ飼フ可カラズ
何ントナレバ鯉ハ常ニ堤塘ヲ突キ穿テ之ヲ毀損スルモノ
ナレバナリ
叩土ノ「アク」ノ未ダ充分ニ脱セザル池ニ永ク放チ置クトキ
ハ盲魚トナルモノナリ

鯉ヲ籠ニ容レテ流水ニ活シ置クトキハ舉ナ水上ニ向ヒ頻
 リニ其目ヨリ出ント欲シ終ニ唇頭ニ擦傷ヲ負フテ斃ル
 ニ至ルモノナリ
 五寒ノ時池水ヲ淺クスルトキハ凍傷ヲ負フコトアリ凍傷
 ハ終ニ癒ヘ難キモノナリ
 總テ鯉ハ年ヲ經ルニ隨ツテ健全無病ニ至ルモノナリ
 人糞ハ鯉ノ強壯劑ナリ
 潰シ鯉ヲ遠隔ノ地ニ送ルニハ十一月ヨリ四月迄ノ間ニ於
 テ籠ニ容レテ運ビ時々水ヲ注グバ三四日ヲ經ルモ斃死ス
 ルコトナシ
 夏季鯉ヲ水ニ浸シテ運搬スルニハ少クモ一晝夜間餌ヲ絶
 ナ清水ニ飼ヒ置キ然ル後擔桶ニ容レテ運送シ凡三時間毎

ニ水ヲ換フベシ飼養池ヨリ採リ出シ直ニ運送スルトキハ
 凡ツ十五分間毎ニ水ヲ換ヘザレバ斃死ヲ免レズ
 常ニ物ノ蔭ニ潛ミテ運動セザル魚ハ非常ニ能ク成長シ居
 レルモノナリ
 當歲魚飼養池ノ設備無キトキハ農家ニ約シ稚魚ヲ與ヘテ
 稻田ニ飼ハシメ秋季ニ於テ之ヲ買得スベシ
 常ニ蠶蛹ヲ與ヘタル鯉ヲ食セントスルトキハ其料理ヲ爲
 ス十日前ヨリ別所ニ移シテ臭氣無キ餌ヲ與フベシ然ラザ
 レバ魚肉蝻臭ヲ脱セザルモノナリ
 鯉ノ壽命ハ概テ幾年ヲ保ツベキモノナルカ測リ知ルヲ能
 ハザレドモ八十年以上ニ及ビタルモノアルコトハ往々見
 聞スル所ナリ

餌料運搬ノ事ヲ除ケバ凡ソ一人ニシテ二千貫以上ノ魚ヲ飼育スルユトハ容易ナルベシ
 明治三十五年伊崎養魚場一部ノ計算ヲ示セバ左ノ如シ
 最初六百餘坪ノ田ヲ潰シテ甲乙丙ノ池ヲ作レリ

其略圖



甲池ニハ當歳魚乙池ニハ二歳魚丙池ニハ三歳魚ヲ飼養シ而シテ年々丙池ノ三歳魚ヲ賣拂ヒ然ル後乙池ノ魚ヲ丙池ニ容レ甲池ノ魚ヲ乙池ニ移スヲ例トス

| | | |
|-----------|--------------------|-------------------------|
| 甲池 當歳魚 | 五月十日 三千二百尾ヲ存ス | 十一月十六日 收穫 七十一貫目 |
| 乙池 二歳魚 | 五月十日 六十八貫目ヲ放ツ | 十一月十六日 收穫 二百三十七貫目 |
| 丙池 三歳魚 | 五月十日 三百四十三貫目ヲ放ツ | 十一月十六日 收穫 七百八十五貫目 |

右三池ニ投シタル餌量ヲ細別スレバ左ノ如シ

| | | | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------------|
| 五月十五日 ヨリ六月十日 迄ニ與ヘタル 餌 | 六月十五日 ヨリ六月三十日 迄ニ與ヘタル 餌 | 七月中ニ與 ヘタル餌 | 八月中ニ與 ヘタル餌 | 九月中ニ與 ヘタル餌 | 十月中ニ與 ヘタル餌 | 十一月十五日 迄ニ與ヘタル 餌 |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------------|

| | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 甲 當歲魚 | ○ | 四斗五升 | 七斗五升 | 一石 | 三石三斗 | 四石 | 一石三斗 |
| 乙 二歲魚 | 三斗二升 | 二石八斗 | 四石五斗 | 五石六斗 | 七石六斗 | 十石 | 三石五斗 |
| 丙 三歲魚 | 六斗二升 | 五石 | 十二石 | 十五石 | 十九石 | 廿六石 | 八石 |

計 糶搗麥 九斗三升 代金六圓九拾七錢五厘
 百廿六石八斗 代金百七拾七圓五拾二錢

收入 支出

一金八百廿四圓廿五錢 丙池三歲魚七百八十五貫賣拂代 壹圓〇五錢換
 二金貳拾五圓廿錢 甲池當歲魚成長遲ノモノ十八貫賣拂代 壹圓四拾錢換

計 金八百四拾九圓四拾五錢

內

金百八拾四圓四拾九錢五厘 餌料代金
 金拾八圓 蛹運搬賃
 金五拾六圓 四月ヨリ十一月迄管理人給料
 金廿六圓四拾錢 土地掟米二石二斗ニ對スル代金
 金拾貳圓五拾錢 池修繕費及浚渫人夫賃
 金七圓廿一錢五厘 雜費
 小以金三百四圓六拾壹錢
 差引金五百四拾四圓八拾四錢 純益
 外二

甲池當歲魚乙池二歲魚存在ス

2-271

明治三十六年五月廿二日印刷
明治三十六年五月廿八日發行

著者 井崎吟二郎

發行者兼印刷者 青木恒三郎

印刷所 嵩山堂印刷部

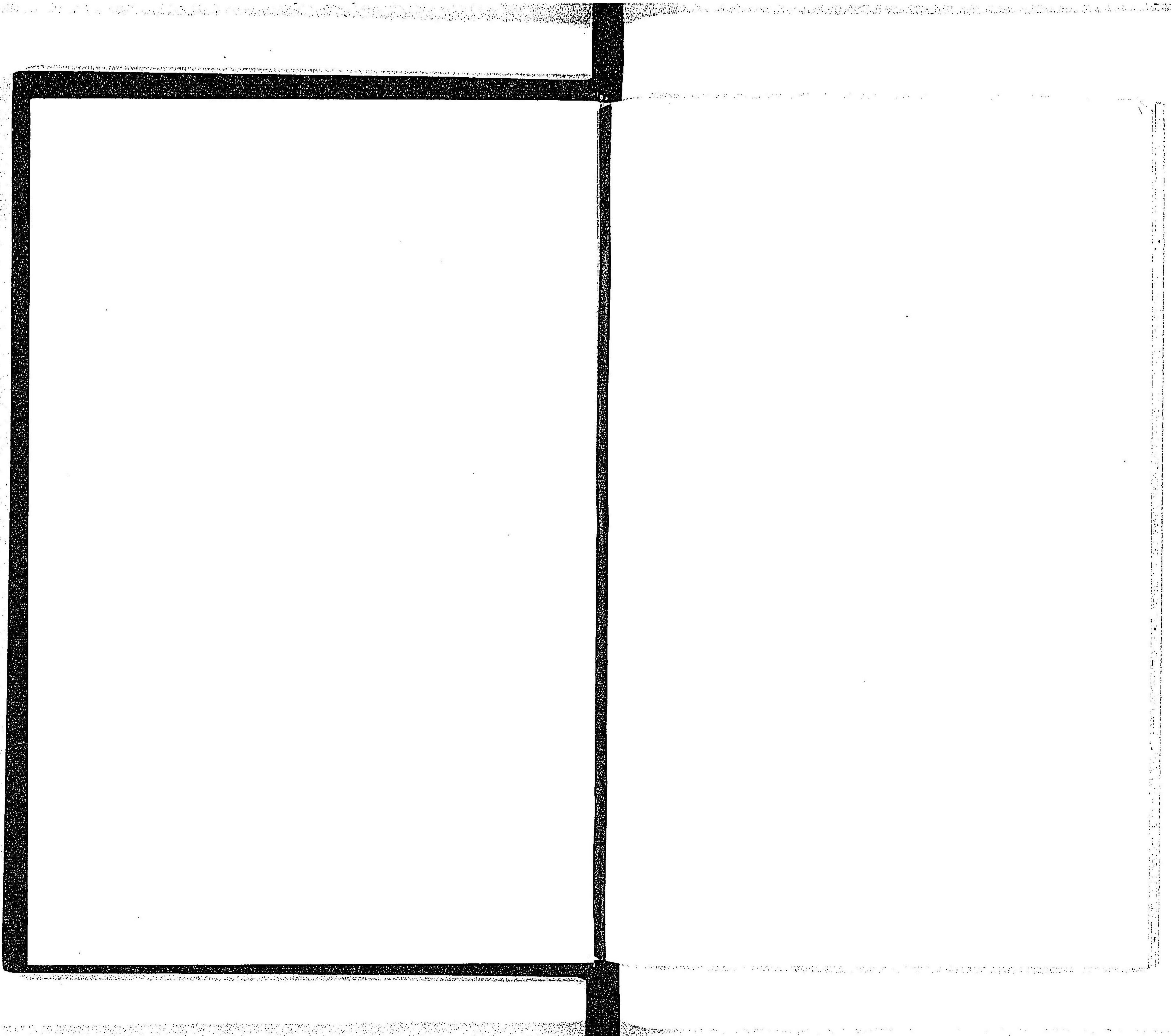
發行所 大阪市東區心齋橋筋博勞町角 青木嵩山堂

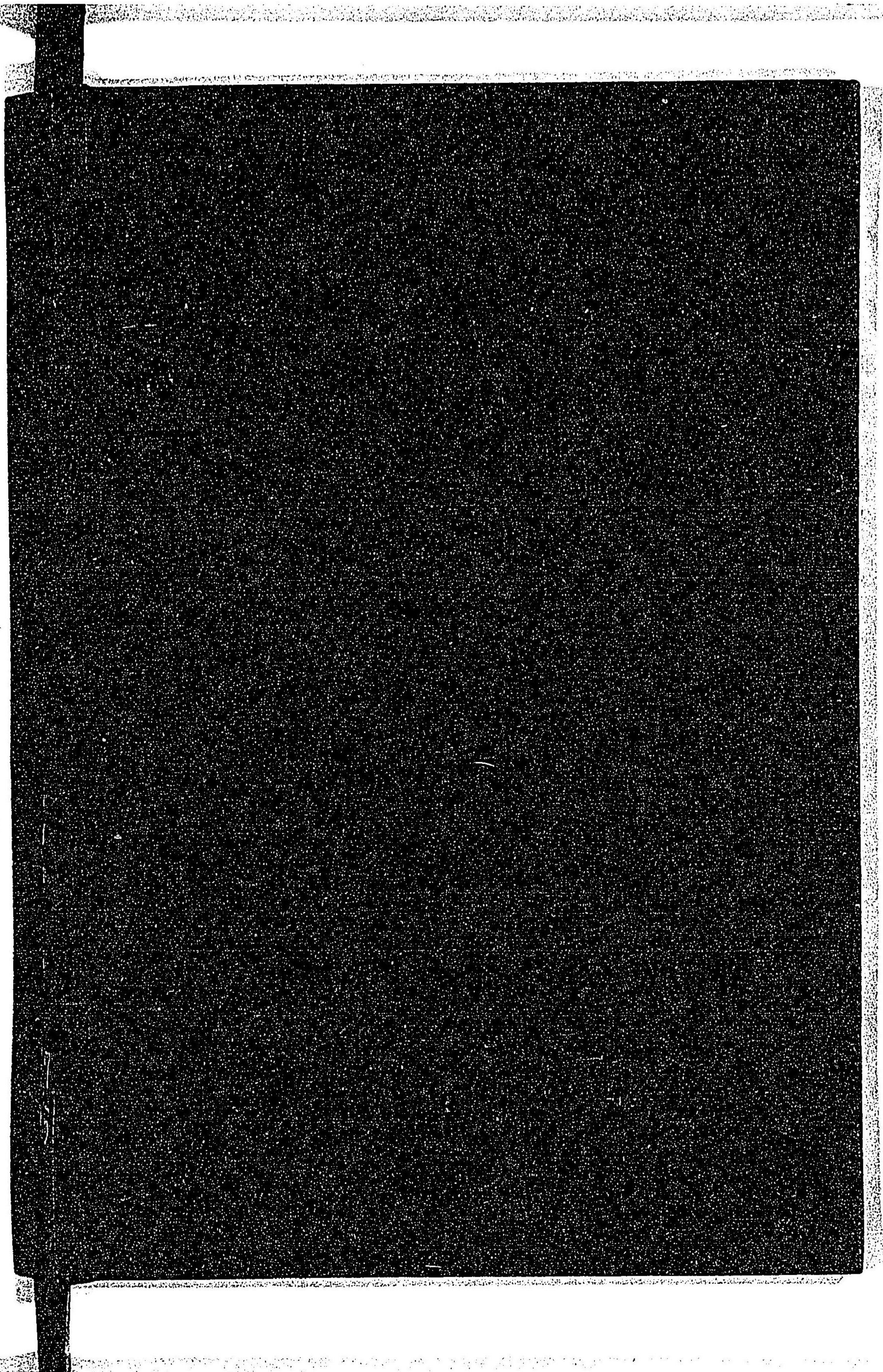
發行所 東京市日本橋區通一丁目角 青木嵩山堂

賣捌所 伊勢四日市市堅町 嵩山堂支店

| | | |
|-------|-------|-----|
| 定價金廿錢 | 著作權所有 | 發經法 |
|-------|-------|-----|

11/36





97
15

065737-000-3

97-15

養鯉法

伊崎 吟二郎 / 著

M36.5

CCF-0433



